

航空事故調査報告書
日本航空株式会社所属
ダグラス式DC-10型JA8543
公海上空
平成元年2月26日

平成元年4月19日

航空事故調査委員会議決

委員長 武田 峻

委員 薄木 正明

委員 宮内 恒幸

委員 東 昭

委員 竹内 和之

1 航空事故調査の経過

1.1 航空事故の概要

日本航空株式会社所属ダグラス式DC-10型JA8543は、同社の722便としてマレーシアのクアラルンプール空港から新東京国際空港へ向け飛行していたが、平成元年2月26日00時58分（日本標準時）ごろ、北緯6度20分東経102度40分付近の公海上空の同機内において、乗客1名が病死した。

1.2 航空事故調査の概要

1.2.1 事故の通知及び調査組織

航空事故調査委員会は、平成元年2月26日、運輸大臣から事故発生 of 通報を受け、当該事故の調査を担当する主管調査官を指名した。

1.2.2 調査の実施時期

平成元年2月28日

事実調査

2 認定した事実及び 事実を認定した理由

J A 8 5 4 3 は、乗客 2 3 9 名及び乗員 1 4 名（運航乗務員 3 名、客室乗務員 1 1 名）が搭乗し、平成元年 2 月 2 5 日 2 3 時 2 5 分（日本標準時 2 6 日 0 0 時 2 5 分）クアラルンプール空港を離陸し、新東京国際空港へ向けて飛行した。

同機が巡航高度であるフライト・レベル 2 9 0（高度約 2 9, 0 0 0 フィート）に到達して間もなく、0 0 時 5 0 分（日本標準時、以下同じ）ごろ、男性乗客 1 名（7 1 才）の様子がおかしい旨が、同行者によって客室乗務員に知らされた。直ちに医師の協力を求める機内放送が行われ、同機内に乗り合わせた医師 1 名による診断及び蘇生術（心臓マッサージ）及び客室乗務員による酸素吸入が行われたが、0 0 時 5 8 分ごろ、マレーシアのコタバルの東北東約 5 0 キロメートルの公海上空において同医師により死亡が確認された。

同機は飛行を継続し、0 6 時 2 3 分新東京国際空港に着陸した。

着陸後の当該乗客の死体検案書によると、死因は心不全であった。

3 原因

本事故は、飛行中に乗客が心不全により死亡したものと認められる。